



TITLE:

## 心理研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

室伏, 靖子; 松沢, 哲郎; 藤田, 和生; 正高, 信男

---

CITATION:

室伏, 靖子 ...[et al]. 心理研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1989, 19: 16-18

ISSUE DATE:

1989-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163953>

RIGHT:

- 23) 三上章允・長田佳久 (1988) : 霊長類のコントラスト (2) 3歳のニホンザル. 日本心理学会第52回大会論文集、603.
- 24) 長田佳久・三上章允 (1988) : 霊長類のコントラスト (3) 成人の場合. 日本心理学会第52回大会論文集、604.
- 25) 鎌田勉・亀田和夫・小嶋祥三 (1988) : ニホンザルの聴覚感度曲線と聴覚信号認知. 生理学雑誌、50 : 501.
- 26) 小嶋祥三 (1988) : チンパンジーの聴覚刺激の弁別閾の測定. 霊長類研究、4 : 181.
- 27) 小嶋祥三 (1988) ニホンザル、チンパンジー、ヒトの聴覚特性. 日本心理学会第52回大会発表論文集、536.
- 28) 小嶋祥三 (1988) : ニホンザル、チンパンジー、ヒトの純音強度弁別閾の測定. 第12回神経科学学術集會予稿集、93.

## 心理研究部門

室伏靖子・松沢哲郎・藤田和生・正高信男<sup>1)</sup>

### 研究概要

#### 1) チンパンジーの図形語による記述行動の分析

室伏靖子・松沢哲郎

チンパンジー (アイ) は、異った背景や配置で現れる3人の動画のだれがだれに近づいたかを、語順によって、[主体名・近づく・客体名]と表現することができた。

#### 2) チンパンジーにおける数の概念の形成

室伏靖子・松沢哲郎・板倉昭二<sup>2)</sup>

チンパンジーの数の同定 (マッチング) の学習が、アラビア数字 (1-7) およびタッピング (1-5) を用いて進行し、形・色・大きさが異なる物の混合ボタンに対して般化した。

#### 3) チンパンジーにおける刺激等価性の獲得<sup>3)</sup>

松沢哲郎・藤田和生

ヒトの言語の重要な一側面である刺激等価性の成立を規定する要因を、チンパンジーを被験体として分析した。社会的場面での「言語」習得研究

- 1) 1989年4月16日付けで助手に採用。
- 2) 大学院生。
- 3) 山本淳一 (筑波大) との共同研究。

のための予備研究としておこなった。

#### 4) チンパンジーによる「象徴的構成見本合わせ」

松沢哲郎

チンパンジー (アイ) に、命名の対象となる品物を提示し、その名前に相当する図形文字を記号素から構成することを教えた。

#### 5) チンパンジーとヒトの生態心理学的比較研究

松沢哲郎

西アフリカ・ギニアの野生チンパンジーの社会的行動 (とくに行列と道具使用) の観察と実験的分析をおこなった。また、アメリカ・ペンシルバニア州のアーミッシュについて、家庭と水校教育の調査をおこなった。

#### 6) チンパンジーにおける心的回転

藤田和生・松沢哲郎

チンパンジーに回転した同じ図形を選ぶことを訓練し、その反応潜時と回転角度の関係を分析することから、彼らの「心的イメージ」の操作能力を吟味している。

#### 7) 霊長類における種の認知の発達とその規定因の検討

藤田和生

霊長類の種の認知の発達を、サルの写真の強化刺激としての効力を指標として調べた。異種間の母子交換をおこない、乳幼児の社会的接触経験を統制することによって、種の認知を規定する要因について検討した。

#### 8) 霊長類における楽音の認知

藤田和生・友永雅也<sup>4)</sup>

霊長類が和音をどのように認知するかを、その感覚性強化子としての機能と弁別刺激としての機能の両面から分析している。

#### 9) 霊長類の音声コミュニケーションの比較行動学的研究

正高信男

ニホンザル・アカゲザル・チンパンジーの音声コミュニケーションの行動学的分析を通じて、ヒトの音声言語の進化の解明のためのアプローチをすすめた。

## 総 説

- 1) 室伏靖子 (1988) : 高次機能の比較心理. 新生理学科学大系12、高次脳機能の生理学 (鈴木)
- 4) 特別研究学生 (大阪大・人間科学)。

木寿夫・酒田英夫編)、医学書院。

- 2) 松沢哲郎 (1988): 「あざむき」の発達—チンパンジーの社会的知能の発達. 発達、33: 58-65.
- 3) 松沢哲郎 (1988): 行列と足跡—西アメリカ・ギニアの野生チンパンジー研究の展開. 発達、35: 63-71.
- 4) 松沢哲郎 (1988): 横顔テスト—ラテラリティーの起源と進化. 発達、36: 105-113.
- 5) 松沢哲郎 (1988): チンパンジー語の「文法」. 科学朝日、48 (12): 18-23.
- 6) 松沢哲郎 (1989): おもちゃと道具. 発達、37: 96-103.
- 7) 藤田和生 (1989): マカクザルおける種の認知. 生物科学、41: 1-12.
- 8) 正高信男 (1989): コミュニケーションのエソロジー. 応用心理学講座 第11巻 (糸魚川直祐・日高敏高)、福村書店

## 論文

- 1) Hayashibe, K., Hara, M., Tsuji, K. and Matsuzawa, T. (1988): Japanese monkeys' cardiac responses to visual depth. Perceptual and Motor Skills 67: 303-310.
- 2) Masataka, N. and Kohda, M. (1988): Primate play vocalizations and their functional significance. Folia Primatologica 50: 152-156.
- 3) Masataka, N. (1989): Motivational referents of contact calls in Japanese monkeys. Ethology 80: 265-273.
- 4) 正高信男 (1989): リスザルの「会話」分析. 季刊人類学 80 (1): 3-19.

## 報告・その他

- 1) 室伏靖子・松沢哲郎・浅野俊夫 (1988): チンパンジーによる主体・客体の語順の獲得. 霊長類研究、4: 181.
- 2) Murofushi, K. (1988): Apprehension of number by a chimpanzee (*Pan troglodytes*). Abstracts of XXIV International Congress of Psychology: S336.
- 3) Matsuzawa, T. (1988): The language-like skill combining 'words' and constructing the 'words' from the elements in a chimpan-

zee (*Pan troglodytes*). Abstracts of the XXIV International Congress of Psychology: S156.

- 4) Matsuzawa, T. (1988): Colour naming and classification by human and chimpanzee (*Pan troglodytes*). Abstracts of the XXIV International Congress of Psychology: S324.
- 5) Matsuzawa, T. (1988): Reproduction of complex geometric figures from the elements by a chimpanzee (*pan troglodytes*). Abstracts of the XXIV International Congress of Psychology: F594.
- 6) 佐倉 統・松沢哲郎 (1989): 野生チンパンジーの石を使った堅果割り行動にみられる可塑性について—道具使用行動への生態心理学的アプローチ. 野生チンパンジーの行動研究 (杉山幸丸編・科研費海外学術研究報告書)、17-41.
- 7) 松沢哲郎・佐倉 統 (1988): 野生チンパンジーの採食地選択: 行列の観察と足跡の個体識別による分析. 霊長類研究、4: 155.
- 8) 松沢哲郎 (1989): ことばをおぼえたチンパンジー. 福音館書店.
- 9) 藤田和生 (1988): 霊長類における種の認知—発達とその規定因 (2)—. 霊長類研究、4: 187.
- 10) 藤田和生・三上章允・長田佳久 (1988): 霊長類のコントラスト感度 (1)—1歳未満のサルの場合—. 日本心理学会第52回大会発表論文集、602.
- 11) 正高信男 (1988): リスザルの会話分析. 霊長類研究、4: 182.
- 12) 正高信男 (1988): Mating Partner の操作は言語能力を必要とするか. Networks in evolutionary biology、6: 27-28.
- 13) 吉久保真一 (1988): アカゲザルによる、マカク属の分類. 日本心理学会第52回大会発表論文集、837.
- 14) 吉久保真一 (1988): アカゲザルにおける、種の弁別行動. 霊長類研究、4: 187.
- 15) 板倉昭二 (1988): オランウータンにおける見本合わせ. 動物心理学年報 38: 38.
- 16) 板倉昭二 (1988): チンパンジーによる個体名の習得—記述と理解—. 日本心理学会第52

## 社会研究部門

加納隆至・大沢秀行・鈴木 晃

### 研究概要

- 1) ザイル共和国ザイル森林におけるビッグミーチンパンジーの社会学的研究(現地調査)

加納隆至・五百部裕<sup>1)</sup>

文部省科学研究費補助金(海外学術研究)により、1988年8月より12月まで、ザイル共和国ワンバにおいて現地調査を行った。今年度の調査は、餌付けをしない自然状態のもとで集団を追跡し、群間交渉・群内オス間交渉・母子関係・移入メスの行動・遊動行動・生息地の垂直利用・突撃誇示等の資料が収集された。

- 2) アフリカ地域乾燥サバンナにおける狭鼻猿類の野外研究

大沢秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園においてバタスザルおよびミドリザルの野外研究を1984年より続けている。1988年度は両種の採食行動の比較およびバタスモンキーの雄を中心とした非交尾期の社会関係の調査を行った。

- 3) インドネシア・東カリマンタン・クタイ国立公園における野生オランウータンの社会・生態学的研究

鈴木 晃

クタイ国立公園内に生棲するオランウータン約30頭の社会関係・採食生態学的研究従事(1988年8月-1989年3月)。

- 4) 父子判定に基づくニホンザルの繁殖戦略の研究

大沢秀行・光永総子<sup>2)</sup>

生化学研究部門で開発した父子判定の技術を利用し、これまで不明であった雄の繁殖効率、および繁殖戦略の研究を1987年度より開始した。1988年度は前年の交尾期間中終日観察を行った。霊長類研究所のニホンザル若桜放飼群の資料より、交尾回数、交尾時間、交尾努力、繁殖成功率と交尾

個体の年齢・順位の関係进行分析した。また、同じ若桜群を引続き観察し、昨年度の資料と比較している。

- 5) ニホンザル地域個体群の動態

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林において、ニホンザル地域個体群の個体群動態・土地利用等に関して、継続的研究を行い、同研究林の管理運営に関して協力した。

### 論文

- 1) Ihobe, H. (1989) : How social relationships influence a monkey's choice of feeding sites in the troop of Japanese macaques (*Macaca fuscata fuscata*) on Koshima islet. *Primates* 30 (1) : 17-25.

### 報告・その他

- 1) Suzuki, A. (1988) : The socio-ecological study of orang-utans and the forest conditions after the big forest fires and drought, 1983, in Kutai National Park, Indonesia. Occasional papers, Kagoshima University Research Center for the South Pacific. 14 : 117-136.
- 2) 大井 徹 (1988) : スマトラの森にブタオザルを追って。モンキー 31 (6) : 4-11.

### 学会発表

- 1) 大沢秀行 (1988 : バタスモンキーの配偶関係と交尾戦略。第4回日本霊長類学会大会。霊長類研究 4 : 161.
- 2) 大沢秀行 (1988), ニホンザルの雄の交尾戦略とその結果。日本動物行動学会第7回大会。
- 3) 鈴木 晃 (1988) : 熱帯林大火災以後のオランウータンの採食生態。第4回日本霊長類学会。
- 4) 五百部裕・伊谷原一 (1988) : ビグミーチンパンジーの単位集団間関係 (I) - オス間の相互交渉 -。第25回日本アフリカ学会大会、研究発表要旨 1.
- 5) 伊谷原一・五百部裕 (1988) : ビグミーチンパンジーの単位集団間関係 (II) - メス間の相互交渉 -。第25回日本アフリカ学会大会、研究発表要旨 2.

1) 大学院生

2) 研修員